

《世界遺産暫定一覧表候補の文化資産》

足尾銅山～日本の近代化・産業化と公害対策の起点～

足尾銅山の世界遺産登録をめざして

足尾銅山の概要

○足尾銅山のはじまり

足尾銅山は栃木県西部、渡良瀬川の最上流部に位置する日光市足尾町にあります。

銅山の発見は諸説ありますが、16世紀中には採掘が始められていたと考えられており、慶安元年（1648）には徳川幕府の御用銅山となりました。産出された銅は、江戸城、芝の増上寺、日光東照宮などの銅瓦に用いられ、長崎から海外にも輸出されました。貞享元年（1684）には1500トンの生産量を記録し全盛期をむかいましたが、その後は徐々に低下し、江戸時代末期にはほぼ廃山同然となりました。

○近代化による大躍進

明治10年（1877）に古河市兵衛が銅山を買収、経営に着手し、近代的手法による鉱源開発を行った結果、同14年産の果坑、同17年本口坑で相次いで直利（富裕な鉱床）を発見することに成功し、以後、急激に発展しました。

産銅量の増加に対応して、明治23年（1890）には、水力発電所としては我が国最初期に位置づけられる間藤水力発電所を完成させ、電気ポンプと電気巻揚機を設置して廃水・鉱石巻揚げの効率化を図るとともに、電気鉄道、架空索道、軽便馬車軌道の敷設による運搬の合理化を実現させました。また、製錬技術の近代化に関しては、明治26年（1893）にベッセマー式転がによる鍊銅法を日本で最初に実用化に成功し、高品質の精銅の製造が可能になり、生産性が飛躍的に向上しました。

これらの技術革新により足尾銅山は、東洋一の生産量を誇る銅山へと成長しました。

○公害対策の歴史

しかし銅山の成長は、一方で製錬過程で発生する亜硫酸ガスによる煙害の発生や、採鉱、選鉱、製錬の全過程で発生する重金属を含んだ廃水による下流域の水質汚染や農地の土壌汚染をもたらすという公害問題（鉱毒問題）を発生させることとなりました。

田中正造や被害民の運動により鉱毒問題は、「足尾鉱毒事件」として広く知られることとなりますが、事態を重く見た政府は「鉱毒予防工事命令」を発令し、堆積場、沈澱池、濾過池、脱硫酸などの鉱害防除施設の建設を命じました。特に明治30年（1897）の第3回予防工事命令では、わずか半年という期限内で完成しなくては鉱業停止という条件の下、古河市兵衛は104万4千円の巨費を投じて工事を完遂させました。

これにより廃水対策は一定の成果を見るものの、脱硫酸塔での煙害対策は十分でなく、その解決には、多くの課題を抱えながら試行錯誤の歴史を経て、自焙製錬法とそれに伴う脱硫酸技術が確立される昭和31年（1956）まで待たなければなりません。その後、古河が独自の改良を加えて完成させたこの公害防除技術は、現在では国内だけでなく海外においても、環境負荷低減のため導入されています。

足尾銅山の公害対策は国家の公害政策として位置づけられ、以後、国内の諸鉱山の公害調査が本格化するきっかけとなりましたが、このような取り組みは日本の公害対策の起点となったと思われます。

○閉山そして未来へ

足尾銅山は昭和48年（1973）に閉山し、その後も輸入鉱石による製錬が続けられていましたが、昭和63年（1988）に製錬所の稼動も停止され、鉱石による銅生産の歴史に幕を閉じました。

しかし、坑内廃水の浄水処理や煙害地の植林は、明治時代から今日まで続けられています。特に煙害地の植林は、国・県・古河のみならず多くのボランティアが参加し、荒廃地であった山々の緑は回復しつつあります。

このように森林の保全と緑化の推進活動など、環境との共生に向けた努力は今も続けられています。

年号	西暦	足尾銅山を中心とする出来事
天文19年	1550	銅山が発見される。古河鉱業所（現在、古河機械金庫）開山時発表
慶長15年	1610	農民の治部・内蔵が足尾山（前銅山）で銅鉱の露頭を発見
慶安4年	1651	江戸城や日光東照宮、芝、上野等の社寺の造営に足尾の銅瓦が使われた
延宝4年	1676	この年から12年間、毎年13000～15000を産出し海外にも輸出、銅業を極め足尾町と称した
明治10年	1877	古河市兵衛が銅山を買収、経営を開始
明治14年	1881	慶安産銅で貨物を発見
明治16年	1883	本口坑で大直利を発見
明治17年	1884	直利精製分庫（本山製錬所の前身）、銅山病院・本所館務所を創設
明治18年	1885	小滝坑を取付け、通洞開閉開始
明治19年	1886	民間初の銅山私設電話を開通
明治20年	1887	松木より火出で、足尾の北部地域一帯の山林・住居などが焼失
明治23年	1890	間藤水力発電所、古河鐵道路用鉄橋、尾尾峠に架架索道（鉄索）が完成
明治24年	1891	田中正造が帝國議會で鉱毒問題を提起、町内幹部等により輕便馬車軌道の敷設を開始
明治26年	1893	ベッセマー式転が煉銅を実用化、製錬の近代化が完成するとともに煙害も増加する
明治29年	1896	第1回予防工事命令発令（明治36年まで5回）
明治30年	1897	第2回、第3回予防工事命令発令、監督防除施設（堆積場、沈澱池、脱硫酸塔）を建設
明治34年	1901	田中正造が鉱毒問題で明治天皇に直訴
明治35年	1902	古河との宗談により旧松木村産村
明治36年	1903	日光精製所が造営を開始、総機発電所を建設
明治40年	1907	坑内による大暴動事件が起こる
大正元年	1912	足尾鐵道、町立駅～足尾町開通
大正3年	1914	国産第1号となる小笠原製錬所（足尾式製錬所）を考案、足尾鐵道、足尾駅～足尾本山駅間通
大正4年	1915	湯涌池と鉱山の湯涌池、排煙対策として脱硫酸を廃止し蒸気法を導入
大正5年	1916	足尾町の人口が53828人となり、市制を期待（県下第2位）
大正7年	1918	市制法を廃止し電気収束法を導入
大正10年	1921	本山山道所を廃止し、選別所は通洞に集約される
大正13年	1928	軽便馬車軌道を廃止しガソリンカーに転換
昭和元年	1940	この頃から銅製入労働者が銅山の労働に従事
昭和24年	1949	中国人が強制連行され坑内労働に従事
昭和26年	1954	小滝坑度上、フィンランドのローリー・プラザ社から自焙製錬技術を導入
昭和31年	1956	「自焙製錬法」、「電気集束法」、「脱硫酸法」を応用した脱硫酸技術を世界で初めて実用化し、従来に比べ亜硫酸ガスの大幅な排出削減に成功
昭和33年	1958	五湖沢坑堆積場から泥炭が流出し鉱毒問題再発、毛里田村鉱毒問題解決同盟会設立
昭和35年	1960	質子堆積場が完成し堆積を開始、選別索道廃止
昭和42年	1967	この年から、小笠原製錬所・東予・玉野・日立の各製錬所に自焙製錬導入の技術指導を実施
昭和44年	1973	足尾銅山閉山（平成20年）
昭和45年	1974	足尾銅山鉱毒問題、損害賠償金16億5000万円で、100年目の決着をみる
昭和51年	1976	古河鉱業社と群馬県、埼玉県、大田市の間で公害防止協定締結
昭和55年	1980	足尾銅山観光オープン、坑内観光が始まる
昭和63年	1988	製錬所が事実上の稼働停止、鉱石による銅生産の歴史に幕を閉じる
平成8年	1996	「足尾に緑を育てる会」の活動が始まる（平成14年、NPO法人に認定）
平成12年	2000	足尾環境学習センター開設
平成13年	2001	古河排水倶楽部が一般公開を開始
平成17年	2005	日光市と栃木県が共同で、文化庁へ世界遺産暫定一覧表追加記載提案書を提出
平成18年	2006	足尾歴史館開館（平成18年、NPO法人に認定）
今市市	2007	日光市、旧日光市、藤原市、足尾町、栗山村が新設合併し、新たに日光市が発生
平成19年	2007	「足尾銅山の世界遺産登録を推進する会」が市民団体として設立
平成20年	2008	日光市教育委員会事務局生涯学習課内に、世界遺産登録推進室を設置
平成21年	2009	足尾地域の産業遺産の保存・活用と環境学習推進協議会が発足
平成22年	2010	わたらせ渓谷鐵道（旧足尾鐵道）の主要30施設が国登録有形文化財になる
平成26年	2014	間藤水力発電所が、県有形文化財に指定される
平成28年	2016	古河橋が国重要文化財に指定される、足尾キリスト教会が国登録有形文化財になる
平成31年	2019	本山坑・本山動力所跡、本山製錬所跡、本山鉱山神社跡が国史跡に追加指定される
令和3年	2021	足尾銅山鉱毒資料館・旧足尾銅山鉱業事務所跡歴史館・旧本山小学校講堂が国登録有形文化財になる
令和7年	2025	NPO法人足尾歴史館の運営が古河機械金庫（株）に移管される
		2021 本山動力所跡歴史館開館工事の完了
		一般社団法人古河市兵衛記念センター・足尾銅山記念館が開館

写真：明治32年（1899）小滝地区を視察する田中正造（中央マフラー姿）※小野崎一徳氏撮影

【足尾を学ぶ、体験する施設】

あしおトロッコ館 ashiotoro@gmail.com

～知られる鉄道の博物館～

足尾銅山を始め全国各地で活躍した鉄道車両（主にトロッコ）と鉄道模型と道具等を保存し活用する（一社）あしおトロッコ館の運営施設です。

開館期間	4月～11月末 (毎年の開館期間は那都度告知します)
開館日	土・日・祝日
開館時間	10:00～16:00
料金	大人(大学生以上)500円 子供(高校生以下)200円、未就学児無料

足尾環境学習センター ☎ 0288-93-2525

山火事や煙害などから廃村となった松木地域田三村の歴史、公害や環境問題など幅広く学べる施設です。緑化活動や体験植樹についてはNPO法人足尾に緑を育てる会(Tel. 0288-93-2180)へお問い合わせください。

開館期間	4月～11月
開館時間	9:30～16:30
料金	金 大人200円、高校生以下100円、未就学児無料

足尾銅山観光 ☎ 0288-93-3420

国指定史跡通洞坑を活用した坑内観光。トロッコに乗り坑内に入ると、江戸から昭和までの採掘の様子がわかりやすく展示されています。

開館期間	通年
開館時間	9:00～17:00 (最終入場16:15)
料金	金 大人830円、小・中学生410円

古河掛水倶楽部 ☎ 0288-93-2015 ☎ 0288-93-3255

明治時代に建てられた古河の迎賓館です。周辺の銅山電話ミニ資料館や幹部社宅を活用した鉱石資料館の他、鉱業所長役宅が公開されています。

開館日	土・日・祝日 平日は事前予約にて受付(10名以上)
開館時期	4月～11月
開館時間	10:00～15:30 (14:45受付終了)
料金	金 大人500円、小・中学生300円

足尾銅山記念館 ☎ 0288-25-3800

明治44年に建てられ大正10年まで現位置にあった鉱業事務所が（一社）古河市兵衛記念センターにより復元建設され、記念館として令和7年8月8日から公開されます。

開館期間	通年
開館日	月・木・金・土・日・祝日 ※事前予約制
開館時間	9:30～16:00 (15:00受付終了)
料金	金 大人1,000円、小・中・高校生500円 身体障がい者無料(介護者1名含)

※ 開館日・料金等は変更になる場合がありますので、ご確認ください。

【足尾銅山散策モデルコース】※Ⅰは自動車利用、Ⅱ・Ⅲはわたらせ渓谷鐵道（旧足尾鐵道）利用をおすすめ！

Ⅰ【足尾まるごと周遊コース】

あしおトロッコ館

↓ (0.4km)

③通洞坑(足尾銅山観光)

↓ (1.6km)

⑦古河掛水倶楽部

⑩足尾銅山記念館

↓ (1.8km)

⑧間藤水力発電所跡

川側には展望台が設けられ、川底に発電所の基礎部分を、対岸に旧本山小学校講堂と⑩間藤浄水場を眺めることができます。

↓ (0.9km)

⑮古河橋

対岸に⑦本山製錬所跡を眺めることができます。

↓ (1.6km)

足尾環境学習センター(銅親水公園)

↓ (2.4km)

①本山坑周辺

新古河橋を舟石方面へ渡り、500mほど行くと、左側に④本山動力所跡があり、その先すぐに本山地区の中心部に出ます。かつて社宅があった平地や石積みがわずかに残るだけです。案内板が設置され、昔の様子を偲ぶことができます。

↓ (7.4km)

②小滝坑跡周辺(小滝の里公園)

本山地区から舟石峠を越え、かじか荘を過ぎて1.5kmほど下っていくと、左側に鉄橋が見えてきますが、そこに小滝坑跡があります。そこから300mほど行くと、小滝の里公園に出ます。ここには、小滝地区全体を紹介した案内板が設置されています。

Ⅱ【原向駅～通洞駅散策コース】

原向駅

下車後、原橋を渡ると正面に大きな擁壁が続きますが、この上一帯が⑫原堆積場です。

↓ (1.0km)

⑭第二渡良瀬川橋梁

この橋はアメリカ形式ですが、明治44年、国産にて製造され、大正元年足尾鐵道敷設に伴い、架橋されました。現存している極めて珍しい鉄橋です。

↓ (0.9km)

⑪中才浄水場

遠下の交差点を左に曲がり600mほど行くと、正面に⑬有越鉄塔が見えてきます。その付近の川側一帯が中才浄水場です。また、その先山側には、⑯中才鉱山住宅や⑯通洞選鉱所跡があります。

↓ (0.6km)

⑨通洞変電所

↓ (0.6km)

③通洞坑(足尾銅山観光)

↓ (0.4km)

あしおトロッコ館

↓ (0.3km)

⑭通洞駅

通洞は鉱山用語ですが、それを駅名にした珍しい例です。町場の玄関口としてふさわしい華やかなデザインの建物です。

※産業遺産の大半が鉱山施設のため、安全管理上などから施設内へ立ち入ることができませんが、道路などから外観を見ることが出来ます。事故・怪我等十分に気を付けて見学してください。また、区間距離は実測距離ではありませんので、参考程度にしてください。

Ⅲ【間藤駅～通洞駅散策コース】

間藤駅

下車後、駅前から見える工場一帯が、⑯古河鉅業間藤工場です。

↓ (0.5km)

⑭第一松木川橋梁

この橋は、橋桁の補強の仕方にイギリス式の特徴が見られ、また鋼製の橋脚と石積み山側が長いのが特徴です。大正3年の足尾本山駅までの開通に伴い架橋されたものですが、橋脚路板にはイギリスの「バテント・シャフト・アンド・アクスルドリー社1888年」とあり、他から転用されたことがうかがえます。現用の鉄道橋梁として大変珍しいものです。

↓ (0.6km)

⑦古河掛水倶楽部

⑩足尾銅山記念館

↓ (0.2km)

⑭足尾駅

旧鉱業事務所や古河排水倶楽部、重役役宅が駅前に位置する銅山の玄関口として大正元年に開設された駅です。足尾駅から線路沿いの道（トロ道）を500mほど行くと、右側に⑮足尾キリスト教会があります。

↓ (1.4km)

③通洞坑(足尾銅山観光)

↓ (0.4km)

あしおトロッコ館

↓ (0.3km)

⑭通洞駅

↓ (0.3km)

お問い合わせ先

日光市教育委員会事務局文化財課
世界遺産推進係
〒321-1261 栃木県日光市今市304-1
Tel. 0288-25-3200